

家庭・学校・生産者で取り組む食育

食品の偽装や安全など何かと心配される現代。「食育」という言葉を耳にすることが多くなっているのではないのでしょうか。町内でも学校、地域、生産者が一体となった食育への取り組みが始まっています。今回は、その取り組みを紹介します。



なぜ食育なのか

今、スローフードといったその土地の食文化や食材が見直されています。また、食の安心安全の視点から、地産地消が注目されています。

国は、平成17年に食育基本法を施行させました。この法律では、特に子どもたちに対する食育の位置づけを「豊かな人間性をはぐくんでいく基礎」としています。

食をめぐるのは、「栄養の偏り」、「肥満や生活習慣病の増加」など食生活が

問題となつています。食生活の改善の面からも「食」の安全の確保の面からも、皆さん自らが「食」のあり方を学ぶことが求められているのです。

国内の食生活の現状

農林水産省の「食糧需給表」によると、1人・1日当たりの供給熱量は、昭和35年が2,291キロカロリーであったものが、平成19年では、2,551キロカロリーと約50年の間に260キロカロリーも多く摂取するように変化しています。その中で

も、油脂類の摂取は、105から363キロカロリーへと3倍以上に増え、数字で見ると改めて食生活が変化していることが分かります。油脂類とは逆に、米の摂取は約半分程度に減少しています。

食育による地域づくり

現在、全国的に家庭や学校、生産者が一体となって食育を進めようとする動きが見られています。町内でも、同じような動きが見られ、食育に取り組む団体が増えていま

す。

子どもに対しては、種をまいたり、収穫したりと実際に農業を体験する活動。保護者に対しては、講演会による食の大切さに理解を深める活動が進められています。

食育を通して、豊かな食文化の継承、食に対する感謝、自然に対する恩恵など、食への理解や知識を深め、家庭、学校、地域、保育所、生産者などが連携した地域づくりが求められています。

30代のメタボ対策講座

町では、生活習慣病予防改善を希望する30代の方を対象にメタボ対策講座とメタボ健診を行います。昼・夜のどちらかを選択してください。皆さんのご参加をお願いします。

対象者 30歳代で、生活習慣改善学習を希望する町内在住の方。

日時・場所

- 昼講座
日時 7月28日(火)
午後3時～午後5時
場所 町勤労青少年ホーム
- 夜講座
日時 8月4日(火)
午後7時～午後8時30分
場所 町勤労青少年ホーム
- メタボ健診
日時 9月6日(日)
午前8時～午前9時30分受付
場所 町鳥見山体育館

※メタボ健診は、事業所などで受ける機会がない方が対象になります。健診を希望される方は事前にメタボ対策講座に参加いただきます。

- 参加費(健診料金) 700円
- 申込み期限 7月21日(火)
- 申込み・問い合わせ先
町健康福祉課
☎62-2115

ここでは、6月に町内各地で行われた食育に関する活動の内容をお知らせします。農業体験や有名講師を招いての講演会など幅広く行われています。

地域の取り組み

岩農生と二小児童の農業交流

農業高校や地域と連携した豊かな食育体験事業は、6月12日(金)第二小学校で行われました。この事業では、二小3年生32人と岩瀬農業高校の生徒13人が一緒にトウモロコシの種まきをして交流を深めました。収穫したトウモロコシは、給食として振る舞われるそうです。



子どもの成長は家庭の食卓から

「子どもの身体と心の豊かな育ちは食卓から」をテーマに、岡ノ内幼稚園は6月17日(水)同園で講演会を開きました。講師には服部栄養専門学校理事長・校長の服部幸應先生を招きました。一般開放された講演会には、園児の保護者など約200人が参加して家庭の食事の大切さを学びました。



小豆の種まきを体験

鏡石保育所、鏡石ヘルスメイトの共催による未来(ゆめ)づくり食育事業が6月19日(金)直売所「あやめ」脇の畑で行われました。食に対する興味を持たせようとしたこの事業には、地元農家約10人、保育所児童44人、ヘルスメイト会員約10人が参加して1升の小豆の種をまきました。秋には約30キロの小豆が収穫されるようです。

